



大田洋二郎 (おおた・ようじろう) 氏
静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科部長

がん治療で起きる
口内炎の怖さ

現在、40歳以上の人の半数以上が歯周病になると言われています。

数以上が歯周病になると言われています。昔は歯槽膿漏と呼ばれていた歯周病ですが、原因はプラーク(歯垢)です。

ラブルを引き起こします。がんの治療は、大きく分けて抗がん剤治療、放射線治療、手術の3つです。

がん治療に欠かせない口腔ケア

静岡県立静岡がんセンター
歯科口腔外科部長
大田洋二郎氏

中にカビが生えたりと、10人に4人が口にトラブルが出ると言われています。また、放射線を口の周りにかけると10人中10人、放射線が粘膜を焼けてしまいま

をきれいにするといいこと。は、さほど重視されていませんでした。しかし、口やのどを大きく切除する手術では、まず口腔内をきれいに

の数や入院期間の短縮につながり、経済的な効果も十分あると考えられています。さて、歯周病の人はがん

がん剤で体調が落ちるような人、放射線を口の周りに照射する人、口から食道にかけて手術をする人は、必ず

んに、ご自宅近くの歯科連携の先生を紹介するというシステムができています。これに注目した国立がん

抗がん剤はがん細胞に対して有効である反面、正常な細胞も攻撃してしまうので、口の中が荒れたり、口の

いう状態になります。口内炎のおかげで食事がとれないと、栄養が不足して体力

中のクリーニングをしないまま行つた手術では、35人中21人、64%で感染が起

値ですが統計的には無視できない差であり、歯周病はがんへのリスクを見るため

て勉強会をしました。幸い先生方は非常に熱心で、今は東部地区で65%の歯医

なりです。健康な今のうちから、かかりつけの歯科でチェックを受けて、必要な歯の治療を済ませてお

がんを正しく恐れよう
~最新の治療とケア~

〈企画・制作/静岡新聞社営業局〉

静岡県立静岡がんセンター公開講座第9弾「がんを正しく恐れよう~最新の治療とケア~」(静岡新聞社・静岡放送、三島市民文化会館主催、県立静岡がんセンター共催、スルガ銀行特別協賛、三島市、同市教育委員会後援)の最終回が3月23日、三島市民文化会館で開かれ、山口 建総長と大田洋二郎歯科口腔外科部長が「生きるということーがん」と向き合う心構え七ヶ条ー」「がん治療に欠かせない口腔ケア」をテーマに講演しました。その概要をお伝えします。

な思考を取り戻してゆきま

2万数千件あまりのがんの患者さんやご家族の悩みは大きく4つに分かれます。

頭真っ白、目の前真っ暗
社会が平穏な今日、がん

た。半数以上の方が、不安や恐怖、孤独感に加え、自らの生き方、人生の意味を見出せない苦しみなどい

生きるということ

ーがんとうき合う心構え七ヶ条ー

静岡県立静岡がんセンター
総長
山口 建氏

ことになりま。静岡がんセンターでは、こうした分析結果を全国のがん診療病に提供し、患者さんやご家族の支援に役立てていま

ターのよろず相談や、がん診療連携拠点病院の相談支援センターで心の悩みを打ち明けてみましょう。話し

恐れる」知識を身につけてください。③行動
人はストレスが避けられない環境に長期間置かれると、無力感から、その状況から逃れようとする努力す

いませ。誰しもが避けることができない「生老病死」に向き合い、今日一日を大切に過ごす豊かな心を養うことが重要です。「開き直る」生き方も大切です。

がん治療では多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。

がんとうき合う七ヶ条

40年に渡りがん患者さんとうき合い、「絶望の向こうに希望を見る」とこそ、人間の特性である」と感じています。人生の厳しい局

また、体を動かすことを心がけましょう。早足で歩けば、少しの間でも悩みを忘れ、精神的な落ち着きを取り戻すことができるかも

しかし、心と体は別です。がんという状況から逃れられないときあらめず、「状況が変わり新しい希望を見つけることができるかも知

がん治療は多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。

の再就労は容易ではありません。支援も始まったばかりなので、働いている方はがん治療による自己都合での退職は良く考えてから判断してください。

術前の口腔ケアで感染を予防

10年ほど前までは、抗がん剤を治療する前に口の中

このように、口腔ケアで傷への感染のリスクを減らすことが、術後に食事を口から取れるようになるまで減っています。

がん患者を支える歯科医療連携

静岡県立静岡がんセンターでは抗

ゆる「心の苦痛」を訴えています。また、病院の選択から始まり、医療スタッフとの信頼関係の構築、意思疎通の難しさといった「診療上の悩み」も多く見られます。

面に立ちながらも、しっかりと希望を見つけ、なすべきことをやり遂げる姿を、数多く目にしてきました。

②学ぶ
一番正確で重要なのは自分のがん治療を担当している医療スタッフからの情報です。

また、「やるべきこと」「やりたいこと」「やれること」を整理し、「やるべきこと」を実践しましょう。

必要なることを絞り込む作業が重要です。④豊かな心
みごとなどにはできるだけ早く対応してあげてください。

悲同苦」、患者さんと悲しみや苦しみを共にし、寄り添っていただきたいと思えます。

質疑応答 ◆ ◆ ◆

事前や当日寄せられた質問を中心に質疑応答が行われました。紙面の都合により、本講座の内容に即した質問事項をまとめました。

Q 家族が、がんで手術を受けます。手術までの間家族ができるサポートを教えてください。

山口 患者さん本人は大きな精神的ストレスを感じ、注意力が落ちるなどの状態です。外来診察に付き添ったり、車の運転を替わったりして支えましょう。

Q 口の周りのがんは何科を受診すれば見つかりますか。

大田 口の中に違和感があり、口腔外科で原因がわからない場合は、頭頸部外科のある専門病院で受診してください。



山口 建 (やまぐち・けん) 氏
静岡県立静岡がんセンター総長

1974年度慶應義塾大学医学部卒。99年国立がんセンター研究所副所長。同年宮内府御用掛就任(併任)。

がん治療は多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。

がん治療は多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。

がん治療は多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。

がん治療は多職種チーム医療が主流です。自分もチームの一員という意識を持ち、積極的に治療に必要な情報をスタッフに伝えてください。